

はじめに

大学入試において『文学史』問題が配点のうえで占める割合はそう高いものではないが、知ってさえいれば確実に得点できるものだ。また、直接には文学史的知識が問われない場合でも、たとえば古文において、その作品の概要を知らないで答えられない問題が出題されたり、現代文においても、近代文学に対するある程度の知識が前提にないと読みにくい文章が出題されることもある。このように、直接的にも間接的にも、文学史の知識は入試国語に影響を及ぼすのである。

しかしながら、『文学史』をやらねばと思いつつもいたずらに月日ばかりが経ってゆくのが受験生の現状ではないだろうか。何しろそこには膨大な情報が含まれており、どのようにして、そして、どの程度まで記憶すればいいのか明確な指針がないといった分野なのだから、受験生諸君が当惑するのは無理もない。

大学受験では、いたずらに多くの情報を記憶する必要はない。一方、いくら簡便であっても重要な情報を欠いていては不完全である。したがって、単に重要事項を列挙するばかりでなく、受験の実情に即して、しかも効率的に学習できる参考書や問題集が要求されることになる。

そこでわれわれ編集委員は、これらの要求にこたえるべく本書を作成した。全国の国公立・私立を問わず、実際の大学入試における傾向を徹底的に分析したうえで出題された事項をもなく、しかも簡便にして記憶しやすいように工夫して「解説編」を作成、次いで全分野にわたって実力を確認するのにふさわしい良質の問題を精選し、文学史問題演習としても必要かつ充分な「問題編」をまとめた。つまり、理解と暗記のためのプロセスに基づき、『文学史』の参考書としても、問題集としても、受験に即して、効率的に学習できるものとした。

受験生諸君が本書を効果的に利用して、受験の成果に結びつけてもらうことを、編集者一同願ってやまない。

上代文学のまとめ(大和・奈良時代)

大和朝廷による統一国家の樹立を経て、奈良時代の終わり(七九四年)までを上代という。四世紀ごろから朝鮮半島や中国大陸との国家間の交流が始まり、漢字や仏教が伝来するが、七世紀までは日本語を表記する文字を持たなかった時代であり、文字で表現された文学は八世紀に始まる。

八世紀の日本は、唐という文明国の政治・制度・文化を模範とし、天皇を頂点とした律令国家を大和(奈良)地方を中心に確立発展させていた。そういう時代状況の中で、新しい国家体制の正当性を示す意図をもって、歴史編纂の機運が高まり、**口承文学**以来の神話・伝説・歌謡が整理統合され、ここに史書、あるいは神話・伝説文学としての『古事記』と『日本書紀』が誕生する。宮廷外では、諸国の民間伝承や風土・産物などを記した『風土記』も編集された。

七世紀以来の遣唐使の派遣により大陸文化が盛んに移入されたが、直接の影響を示すものに、当時の上流知識階級によつて編まれた日本最古の漢詩集『懷風藻』がある。その一方で、漢詩に対し、『記紀歌謡』から発達して、和歌も作られた。七〜八世紀の百五十年にわたる皇族、貴族から下級官人や東国農民までの歌(約四五〇〇首)を集めた『万葉集』は、日本の和歌の伝統の礎を築くことになる。素朴で力強い表現の中に率直な感動をこめたそれらの歌は、身近な自然にぴったりと身を寄せて己れの生の姿をおおらかに歌い上げている。

口承文学Ⅱ漢字が渡来し、この外来の文字によつて日本語を表記することになる以前は、歌謡や言い伝えはすべて口づたえによつた。これらを『口承文学』という。

『古事記』・『万葉集』の表記Ⅱ『日本書紀』は中国の歴史書にならう、純粋な漢文体で書かれているが、『古事記』・『万葉集』は音訓をまじえた変則の漢文体で、漢字をその意味とは関係なく表音的に用いるいわゆる『万葉仮名』を使うなど、わが国固有の言葉記録しようとする独特の工夫が認められる。

記紀歌謡Ⅱ『古事記』と『日本書紀』に収められている約百九十首の歌謡。

上代の文学

ポイント

- * 『古事記』は〈歴史書〉だが、文学的価値が高く、文学史の上でも極めて重要である。
- * 『万葉集』については、編者・部立・歌体・表記・後世への影響をつかむ。
- * 『万葉集』の歌風や歌人は、〈詩歌〉の項（P17）で覚える。

歴史書

712
古事記

- ・天皇の命により太安万侶が撰録した、わが国最古の〈歴史書〉。
- ・天地創造の神話や英雄伝説を文学的に描く。
- ・〈注釈書〉として本居宣長『古事記伝』（一七九八年）がある。

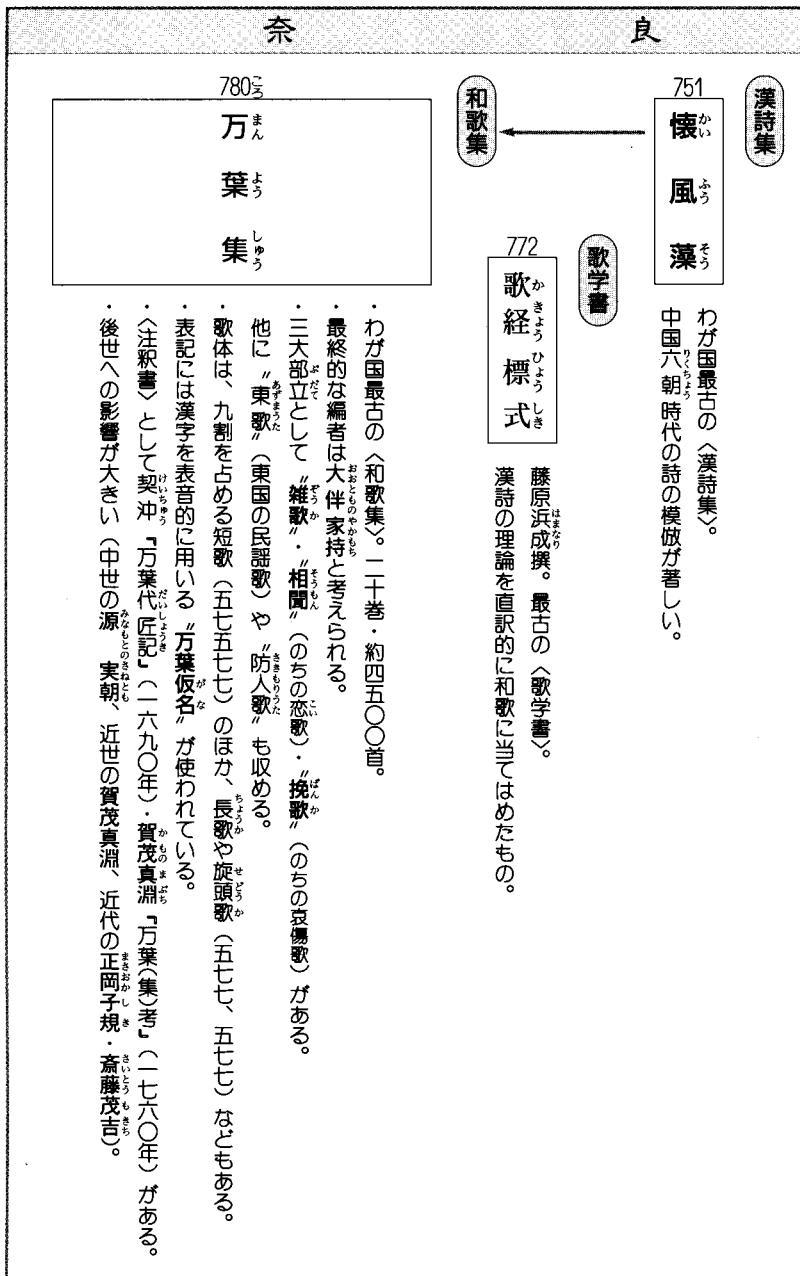
720
日本書紀

天皇の命により舎人親王らが撰録。別名『日本紀』。
正史である『六国史』の最初で、『古事記』より〈歴史書〉としての性格が強い。

地誌

風土記

諸国の地名の由来・産物・地勢・伝承などを記録したもの。
『出雲風土記』（七三三年）など五ヶ国ものが現存する。



基本チェックテスト

□1 『古今和歌集』の撰者でない人物を次の中から一つ選べ。

- イ 紀貫之 □ 凡河内躬恒 八 在原業平
ニ 紀友則 木 壬生忠岑

□2 松尾芭蕉と特に関係のないものを次の中から一つ選べ。

- イ 奥の細道 □ さび・しおり 八 蕉風
ニ 冬の日 木 源氏物語玉の小櫛

□3 『枕草子』の作者を次の中から一つ選べ。

- イ 紫式部 □ 和泉式部 八 清少納言
ニ 小野小町 木 中宮定子

□4 次の作品中の四つは、ほぼ成立時期を同じくしている。一つだけ異なるものはどれか。

- イ 建礼門院右京大夫集 □ 方丈記
八 宇治拾遺物語 二 新古今和歌集 木 徒然草

□5 紀貫之の作品を次の中から一つ選べ。

- イ 新古今和歌集 □ 伊勢物語 八 大鏡
ニ 土佐日記 木 枕草子

□6 第八番目の勅撰和歌集である『新古今和歌集』の代表的撰者を次の中から一つ選べ。

- イ 壬生忠岑 □ 清原元輔 八 藤原公任
ニ 藤原定家 木 紀友則

□7 西鶴の作品を次の中から一つ選べ。

- イ 日本永代蔵 □ 野ざらし紀行 八 琴後集
ニ 新花摘 木 花月草紙

□8 本居宣長の国学の師は誰か、次の中から一つ選べ。

- イ 松永貞徳 □ 賀茂真淵 八 与謝蕪村
ニ 西山宗因 木 松平定信

□9 『蜻蛉日記』の作者を次の中から一つ選べ。

- イ 藤原道綱母 □ 菅原孝標女 八 清原元輔女
ニ 阿仏尼 木 讃岐典侍

□10 西行の作品を次の中から一つ選べ。

- イ 今昔物語集 □ 金槐和歌集 八 発心集
ニ 山家集 木 和漢朗詠集